ONKYO

5.1chスピーカーパッケージシステム

HTP-L5

取扱説明書

お買い上げいただきまして、ありがとうございます。
ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、
正しくお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られる所に
保証書、オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内とともに大切に保管してください。

オーディオ機器の正しい使いかた

オーディオ機器を安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずお読みください。

絵表示について

この「取扱説明書」および製品の表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は注意（警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。

図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。

図の中や近傍に具体的な指示内容（左上図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

⚠警告

■ 故障したままの使用はしない

電源プラグをコンセントから抜いてください

- 万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
  煙が出なくなるのを確認して、販売店に修理を依頼してください。

■ 絶対に裏ぶた、カバーははずさない、改造しない

分解禁止

- 本機の裏ぶた、カバーは絶対にはずさないでください。内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店に依頼してください。
- 本機を分解、改造しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 100V以外の電圧で使用しない

- 本機を使用できるのは日本国内のみです。
- 表示された電源電圧（交流100ボルト）以外の電圧や船舶などの直流（DC）電源には絶対に接続しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 放熱を妨げない

- 本機を逆さまや横倒しにして使用しないでください。
- 本機を専用ラック以外の押し入れや本箱など風通しの悪い狭い所に押し込んで使用しないでください。
- 本機を設置する場合は、壁から10cm以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は、少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面から2cm以上、背面から5cm以上のすきまをあけてください。内部に熱がこもり火災の原因となります。

■ 水の入った容器を置かない

- 本機の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれて中に入った場合、火災・感電の原因となります。

■ 中に物を入れない

● 本機の内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。

■ 中に水や異物が入ったら

● 万一、本機の内部に水や異物が入った場合は、すぐに本機の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。

■ 水のかかるところに置かない

水場での使用禁止

● 風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。

水ぬれ禁止

● 本機は屋内専用に設計されています。ぬらさないようにご注意ください。内部に水が入ると、火災・感電の原因となります。

⚠注意

■ 設置上の注意

● ぐらついた台の上や傾いた所、厚手のじゅうたんの上など不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

● 移動させる場合は、サランネットやスピーカーユニットに手をかけないでください。故障やけがの原因となることがあります。

● 移動させる場合は、電源スイッチを切り、接続コードやスピーカーコードをはずしてから行ってください。落下や転倒など、思わぬ事故の原因となることがあります。

● 壁はその材質、また桟などの位置により、ネジの保持強度に大きな差が出ますので、取り付けに際しては十分にご注意ください。（専門の業者にご相談ください。）

■ スピーカーコードは安全な場所へ

● スピーカーコードの配線された位置によってはつまずいたり引っかかったりして、落下や転倒など事故の原因となることがあります。スピーカースタンドを使用した場合や高い所に置いた場合、壁に掛けた場合など、特にご注意ください。

■ 次のような場所に置かない

● 湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
● 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

■ 接続について

● 本機を他のオーディオ機器やテレビなどの機器に接続する場合は、それぞれの機器の取扱説明書をよく読み、電源スイッチを切り、説明に従って接続してください。また、接続は指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したりコードを延長したりすると、発熱し、やけどの原因となることがあります。

■ 使用上の注意

● 電源を入れる前にはアンプの音量（ボリューム）を最小にしてください。過大入力でスピーカーを破損したり、突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。
● 長時間音がひずんだ状態で使わないでください。スピーカーなどが発熱し、火災の原因となることがあります。
● 音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。
● 本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様にはご注意ください。倒れたり、こわれたりして、けがの原因となることがあります。
● キャッシュカード、フロッピーディスクなど、磁気を利用した製品を近づけないでください。スピーカーの磁気の影響で使えなくなったり、データが消失することがあります。

⚠注意

■ 電源コード、電源プラグの注意

- 電源コードを熱器具に近付けないでください。コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
- ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。
- 電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。
- 電源コードを束ねた状態で使用しないでください。発熱し、火災の原因となることがあります。

- 旅行などで長期間、本機をご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。
- 移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

■ 点検について

- お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。感電の原因となることがあります。

- 使用環境にもよりますが、2年に1回程度の機器内部の掃除をお勧めします。もよりの販売店にご相談ください。
  本機の内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除、点検費用等についても販売店にご相談ください。

- 電源プラグにほこりがたまると自然発火（トラッキング現象）を起こすことが知られています。年に数回、定期的にプラグのほこりを取り除いてください。梅雨期前が効果的です。

- シンナー、アルコールやスプレー式殺虫剤を本機にかけないでください。塗装がはげたり変形することがあります。

お手入れについて

キャビネットは、時々シリコンクロスまたは、柔らかい布でからぶきしてください。汚れがひどいときは中性洗剤をうすめた液に、柔らかい布を浸し、固く絞って汚れをふき取ったあと乾いた布で仕上げをしてください。固い布や、シンナー、アルコールなど揮発性のものなどでふきますと傷がついたり、文字が消えたり、変色したりすることがありますから、ご使用にならないでください。化学ぞうきんなどをお使いになる場合は、それに添付の注意書きなどをお読みください。サランネットにほこりがついたときは、掃除機で吸い取るか、ブラシをかけるとよくほこりを取ることができます。

カラーテレビやパソコンとの近接使用について

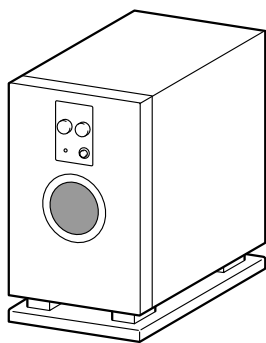
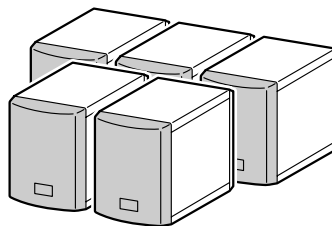
一般にカラーテレビやパソコンに使用されているブラウン管は、地磁気の影響さえ受けるほどデリケートなものですので普通のスピーカーシステムを近づけて使用すると、画面に色むらやひずみが発生します。本機は（社）電子情報技術産業協会（JEITA）（旧（社）日本電子機械工業会（EIAJ））の技術基準に適合した防磁設計を施していますので、テレビなどとの近接使用が可能となっています。ただし、設置のしかたによっては色むらが生じる場合があります。その場合は一度テレビの電源を切り、15分〜30分後に再びスイッチを入れてください。テレビの自己消磁機能によって画面への影響が改善されます。その後も色むらが残るような場合はスピーカーをテレビから離してください。また、近くに磁石など磁気を発生するものが置かれていますと本機との相互作用により、テレビに色むらが発生する場合がありますので設置にご注意ください。

♪音のエチケット

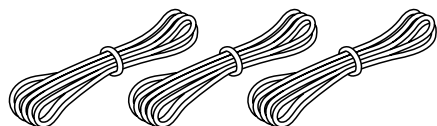
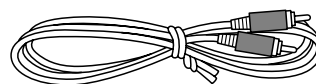
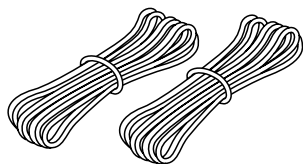
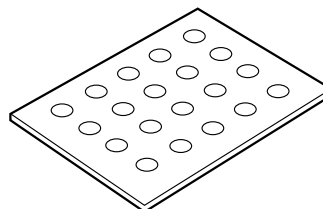
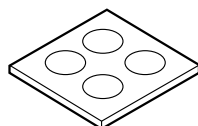
楽しい映画や音楽も、時間と場所によっては気になるものです。隣り近所への配慮を十分にしましょう。
特に静かな夜間には音量を下げてききましょう。

お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

箱を開けたら、まず

- 本体（サブウーファー SL-105）（1）

- サテライトスピーカー（D-L5）（5）

■付属品を確認する

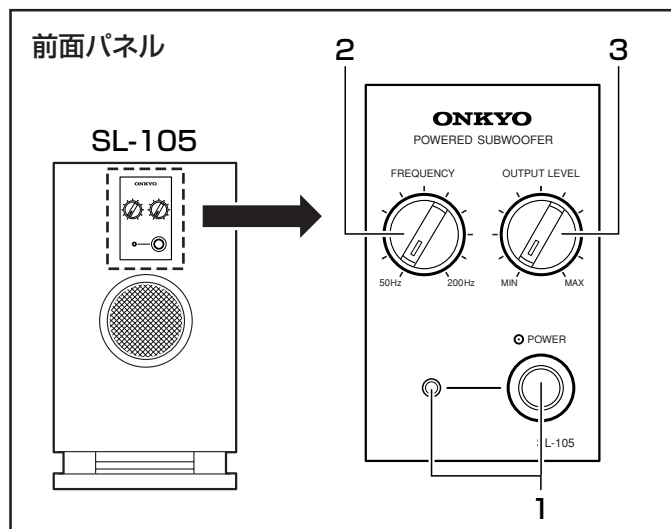
ご使用の前に次の付属品がそろっていることをお確かめください。（　）内の数字は数量を表わしています。

- スピーカーコード（左右フロント／センター用）
  3.5m（3）

- ピンコード（サブウーファー用）（1）

- スピーカーコード（サラウンド用）8m（2）

- サテライトスピーカー用スペーサー
  （1 組＜ 20 個＞）

- サブウーファー用コルクスペーサー（1 組）

- 取扱説明書（本書 1）
- 保証書（1）
- オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内（1）

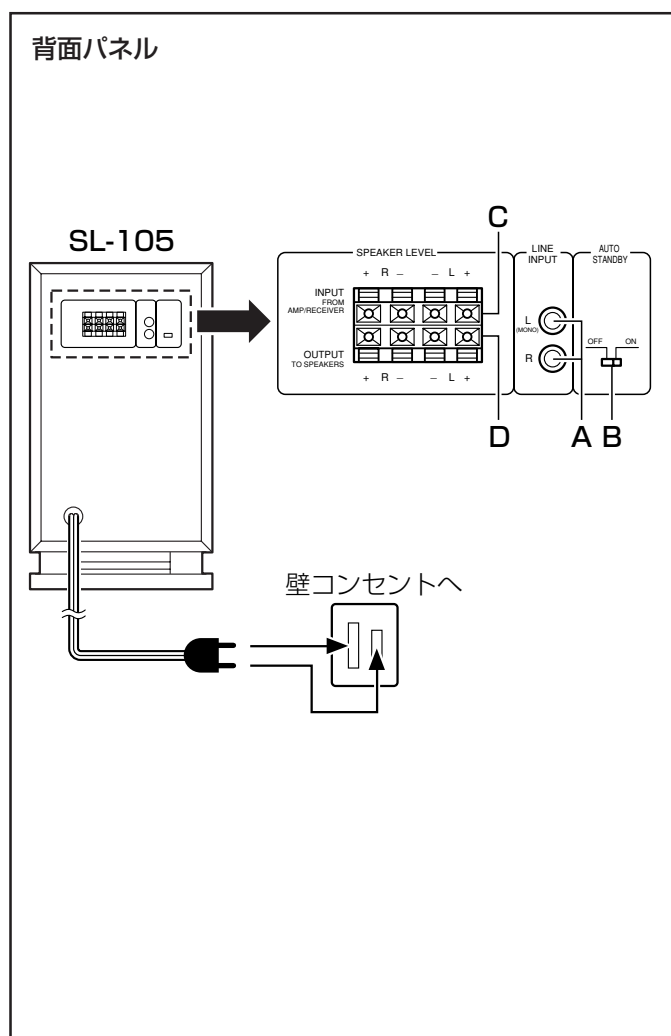
特長

本機は、アンプ内蔵サブウーファーと5つのサテライトスピーカーからなる5.1ch用スピーカーパッケージシステムです。サブウーファーとして、L/Rミキシング回路およびカットオフフィルター内蔵SL-105と、サテライトスピーカーとして、アルミ材キャビネット、OMFコーン使用のD-L5を5台をセットにしました。お手持ちのAVアンプまたはレシーバーに本機を組み合わせることで、最良のサラウンド再生を実現することができます。

各部の名称と働き

サブウーファーSL-105

1. 電源スイッチ(POWER)およびインジケーター
押すと電源が入り、インジケーターが点灯します。もう一度押すと電源が切れ、インジケーターも消灯します。
赤色：スタンバイ状態、**緑色**：動作状態を示します。

2. カットオフ周波数調整ツマミ(FREQUENCY)
高域をカットする周波数を変えるツマミです。組み合わせるスピーカーシステムの低域再生周波数範囲に合わせて、50Hz～200Hzまで連続的に調整できます。

3. 音量調整ツマミ(OUTPUT LEVEL)
サブウーファーの再生音量を調整するツマミです。

A. ローレベル入力端子(LINE INPUT)
AVアンプなどのサブウーファー出力やプリアウト出力を接続する端子です。(本パッケージシステムではLのみ使用します。)

B. オートスタンバイスイッチ(AUTO STANDBY)
オートスタンバイ機能を選択するスイッチです。

ON(オン)：　**オートスタンバイ機能が働きます。**
数分間にわたりアンプ(またはレシーバー)から本機に一定レベルの信号が入力されない場合、本機は自動的にスタンバイ状態になります。また、スタンバイ状態のとき、アンプ(またはレシーバー)から一定レベルの入力信号が入ると自動的に電源が入ります。

OFF(オフ)：**オートスタンバイ機能は働きません。**

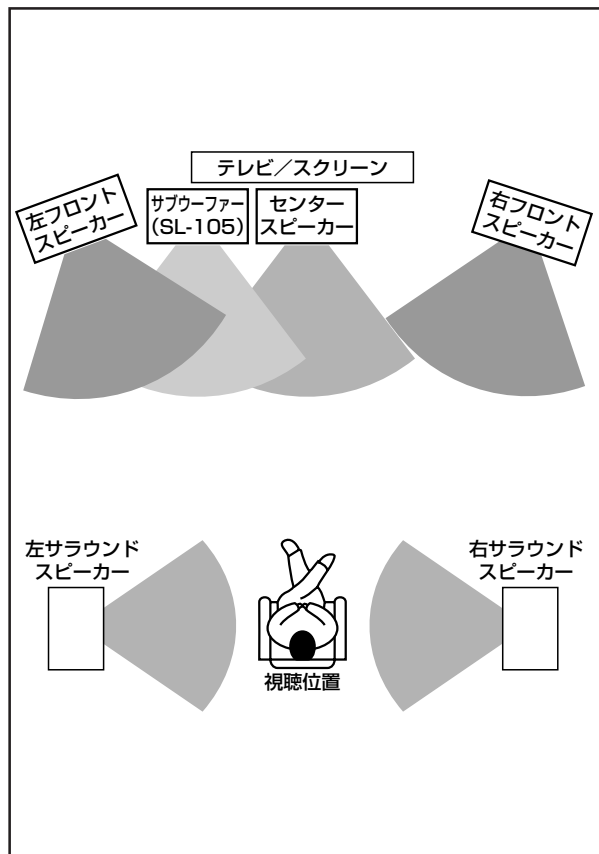
C. スピーカーレベル入力端子(INPUT FROM AMP/RECEIVER)
AVアンプまたはレシーバーのスピーカー出力端子と接続する端子です。(本パッケージシステムでは使用しません。)

D. スピーカーレベル出力端子(OUTPUT TO SPEAKERS)
Cの端子に入力された音が出力されます。(本パッケージシステムでは使用しません。)

ご注意

- オートスタンバイ機能は一定レベルの入力信号の有無により動作します。オートスタンバイ機能がうまく動作しない場合は、アンプの出力レベルを少し高く(または低く)してみてください。(ただしアンプ、レシーバーによっては調整できないものがあります。詳しくはお手持ちのアンプ、レシーバーに付属の取扱説明書をご覧ください。)
- 周辺機器からのノイズなどにより、オートスタンバイ機能が誤動作する場合や、深夜などにごく少音量での再生時にスタンバイ状態になってしまう場合は、スイッチをOFF(オフ)にしてご使用ください。
- オートスタンバイ機能は本機の電源スイッチが入っている時のみ動作します。

スピーカーの設置

■スピーカーシステムの設置場所について

サテライトスピーカー

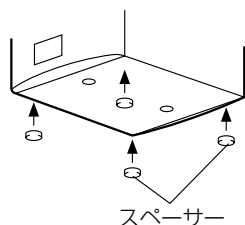
サテライトスピーカー(D-L5)はすべて同じ性能です。3つを左右フロントとセンタースピーカーとして、2つを左右サラウンドスピーカーとして使用します。

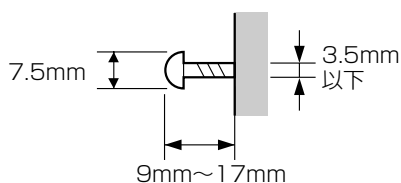
- **左右フロントスピーカーとセンタースピーカー**
  視聴者の前方に配置します。
  ー3つのスピーカーがなるべく同じ高さになるように設置してください。
  ー音楽や映画を鑑賞する位置と姿勢で、視聴者の耳に向くように配置してください。センタースピーカーは、左右フロントスピーカーの音源効果や、音の動きを明確にして、より豊かなサウンドイメージを作ります。
- **左右サラウンドスピーカー**
  視聴者の横または後ろに配置します。音の立体的な動きを表現し、背景をイメージした環境音、また場面を盛り上げる効果音を作り出して臨場感を高めます。

サブウーファー

部屋のどの場所に設置してもかまいませんが、一般的に部屋の隅に近いほど効果が出やすくなります。再生される低音の質や量はサブウーファーの置き場所や、部屋の形状、聞く位置によって大きく変わりますので、部屋の色々な位置に置いてみることをおすすめします。

また、付属のコルクスペーサーを底面四隅に貼りつけていただくとキズを防止し、安定して置くことができます。

■サテライトスピーカー用スペーサーについて

よりよい音でお楽しみいただくために、付属のスペーサーのご使用をおすすめします。すべりにくく安定して設置することができます。

■サテライトスピーカーを固定するには

- **壁への設置**
  壁につける場合、壁の強度に十分注意してください。壁はその材質、桟などの位置により、ネジの保持強度に大きな差がでます。ネジを取り付ける部分の壁の強度に十分ご注意ください。ネジは、頭の直径が7.5mm以下、ネジ部の直径が3.5mm以下のできるだけ太いものをご使用ください。ネジの壁からの飛び出し寸法は、9mmから17mmが適当です。（業者の方にご相談いただくのが安心です。）

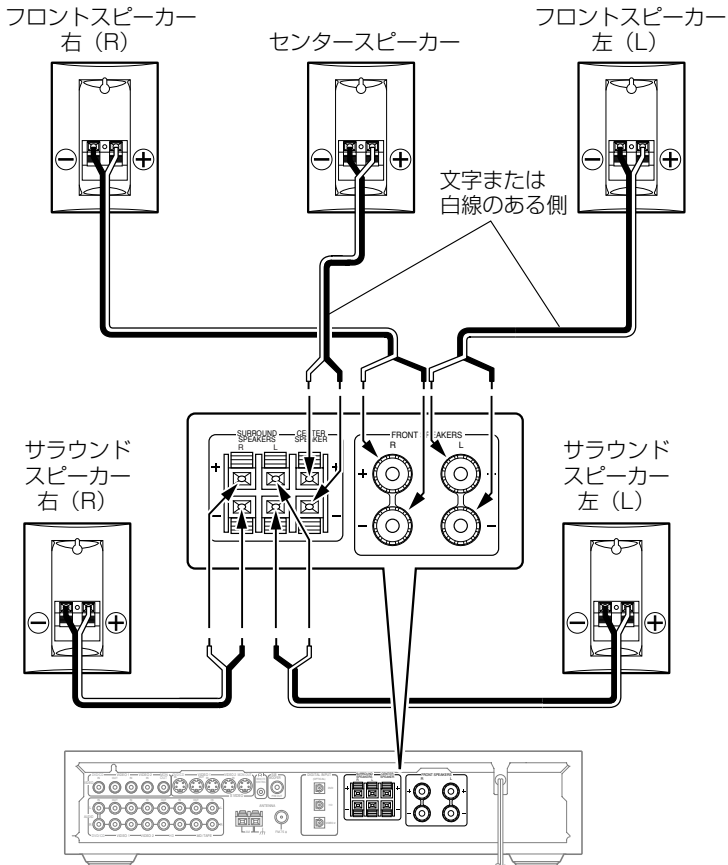
- **市販スタンド、金具への取り付け**
  本機底面には市販のスピーカースタンドなどのアクセサリーを取り付けて、設置のバリエーションが楽しめるネジ穴が装着されています。（M5雌ネジx2、ピッチ60mm）

ご注意

アクセサリーをご使用の際はネジ長に注意してください。有効ネジ長が7mm以上10mm以下で強度が充分得られる物をご使用ください。

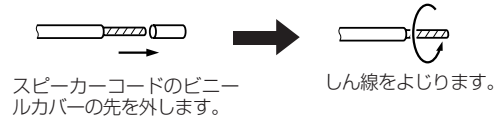
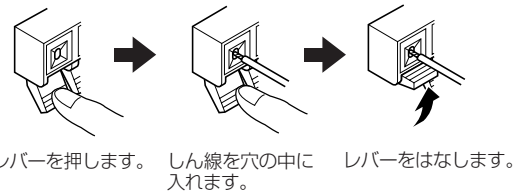
スピーカーの接続

安全のため全ての接続が終わるまで本機および他の機器の電源は切っておいてください。

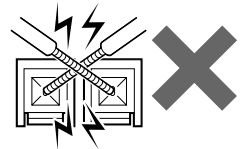
■サテライトスピーカーの接続

ご注意

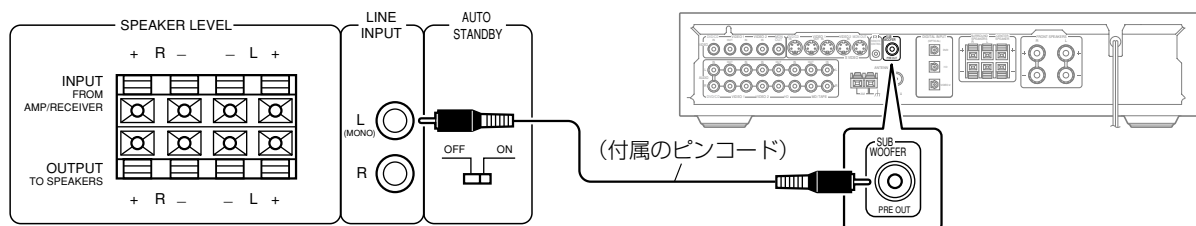
サテライトスピーカーの定格インピーダンスは6Ωです。接続するアンプはそれに適したものをご使用ください。

接続の前に

付属のスピーカーコードを準備します。

スピーカー端子への接続方法

- サテライトスピーカー裏面の入力端子とAVアンプまたはレシーバーのスピーカー出力端子を、付属のスピーカーコードで左図のように接続してください。
- 右側に設置するスピーカーは、スピーカー出力端子のR(右)に、左側に設置するスピーカーは、L(左)に接続してください。

ご注意

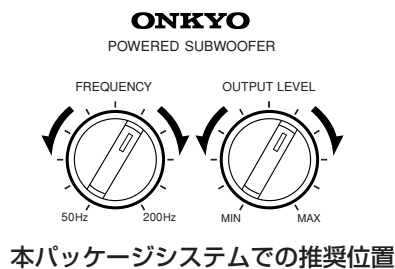
- スピーカーコードの+、−がショート(接触)していないか十分に確認してください。ショートさせるとアンプが故障する場合があります。
- スピーカーコードの+、−(極性)、L(左)、R(右)を間違えないでください。極性を間違えると、音声が不自然になります。
- スピーカーコードを軽く引っ張ってみて確実に接続されているかどうか確認してください。

■サブウーファーの接続

サラウンド再生機能のついたAVアンプやレシーバーと組み合わせる場合は、必ずサブウーファープリアウト端子(SUB WOOFER PREOUT)から付属の接続用ピンコードで本機に接続してください。スピーカーコードを使って本機を接続した場合、アンプやレシーバーの設定によっては、低域信号がカットされて十分な低域がでないことがあります。詳しい接続方法はお手持ちのアンプやレシーバーの取扱説明書をご覧ください。

アンプのサブウーファープリアウト端子(SUB WOOFER PREOUT)とサブウーファー背面パネルの入力端子を上図のように付属のピンコードで接続してください。

ご注意

サブウーファー端子のあるアンプから接続する場合、アンプの出力はモノになっていますので、本機のローレベル入力端子(LINE INPUT)のL(MONO)に接続してください。

調整のしかた

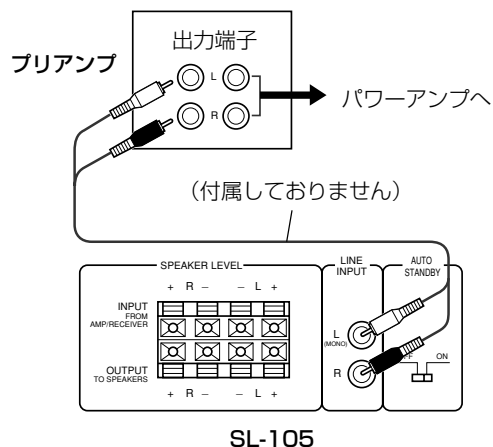
■カットオフ周波数、音量調節のしかた

本パッケージシステムでの推奨位置

部屋の状況や場所に応じて、サブウーファー(SL-105)の前面パネルのカットオフ周波数調整ツマミ、音量調整ツマミで好みのレベルに調整してください。
サブウーファーの再生帯域、音量が適切でない場合は、特性に乱れを生じることがあります。
本システムの組み合わせでは、カットオフ周波数、音量ともに高めの設定をおすすめしますが、超低音は刺激が少ないためつい音量を上げすぎる可能性があります。少し控えめなくらいがちょうど良いバランスになります。

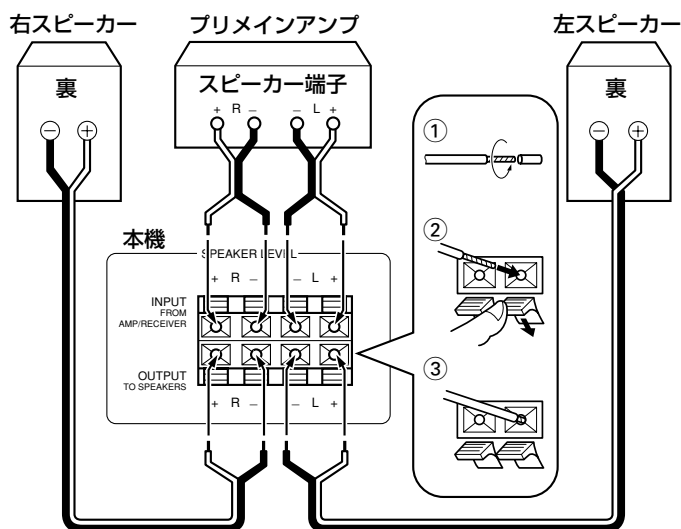
ご注意

過大入力が入らないようにご注意ください。本機は通常の音楽再生では問題ありませんが、常識をこえる過大入力が加えられますと故障の原因になりますのでご注意ください。また、接続するアンプによっては、一旦アンプの音量を下げてからスイッチ類を切り換えるようにしてください。

サブウーファー(SL-105)のみをご使用になる場合

■プリアンプから接続する場合

ご注意

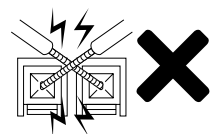
一般のプリアンプから接続する場合は、ＬＲ（左右）とも接続してください。この場合、プリアンプの出力は2系統必要です。

■スピーカー端子から接続する場合

1. 付属のスピーカーコードを使用して、サブウーファー(SL-105)のスピーカーレベル入力端子とアンプのスピーカー端子を接続します。
2. 左右のスピーカーはサブウーファーのスピーカーレベル出力端子に接続します。

スピーカーコードのつなぎかた

① ビニールカバーをはずしスピーカーコードのしん線部をよくよじります。
② スピーカー端子のレバーを押しながらコードの先端を奥までしっかりと差し込みます。
③ 指を離すとレバーが戻ります。コードを軽く引っ張ってみて抜けないことを確認してください。

ご注意

- スピーカーコードの接続は、しん線部が隣の端子や金属部に触れていないかよく確認してください。ショートしたまま動作させるとアンプの故障の原因となります。
- サブウーファー(SL-105)のスピーカー出力端子にスピーカーを接続する場合は、サブウーファーのスピーカーレベル端子に接続するアンプの表示より低いインピーダンスのスピーカーをつなぐと故障の原因となります。
- BTL接続のアンプはご使用にならないでください。アンプ、サブウーファーとも故障の原因となります。一般のアンプはBTLではありません。詳しくはご使用になるアンプの取扱説明書をご参照ください。

取り扱い上の注意

■設置について
- 本機のキャビネットは温度や湿度の極端に高いところや低いところは好ましくありません。直射日光の当たる所や冷暖房機具の近く、浴室や台所の近くなど、湿気の多いところは避けてください。
- 本機(SL-105)は振動や傾斜のないしっかりとしたところに置いてください。付属スペーサーを底面四隅にはりつけていただくとキズを防止し安定して置くことができます。ただし、設置する場所によりスペーサーの後が残ることがありますので、ご注意ください。
- テレビの上などに置いた場合、スピーカーが落ちたりすると危険ですので、設置に際しては十分気をつけてください。特に小さなお子様のおられるご家庭などでは気をつけてください。
  テレビの上に置く場合には
  - 本機の大きさよりも置く場所が広いこと
  - テレビの上が平らで傾いていないこと
  - テレビが不安定な台などに乗っていないこと

  等にご注意ください。
- サブウーファーは立てた状態で使用されるよう設計されていますので、寝かせたり傾けたりしないでください。
- レコードプレーヤーやCDプレーヤーの近くでサブウーファーを使用したとき、ハウリングや音とび現象が起こることがあります。このようなときはプレーヤーと本機の距離を離すか、本機の音量を下げてお使いください。

■使用上のご注意
- 本機は通常の音楽再生では問題ありませんが、次のような特殊な信号が加えられますと、最大許容入力以下でも過大電流による焼損断線事故の恐れがありますので、ご注意ください。

  1. FMチューナーが同調していないときのノイズ
  2. テープレコーダーを早送りしたときの音
  3. 発振器や電子楽器等の高い周波数成分の音
  4. アンプが発振しているとき
  5. オーディオチェック用CDなどの特殊な信号音
  6. ピンコードなど、接続端子の抜き差し時のショック音（抜き差し時は必ずアンプの電源を切ってから行ってください。）
  7. マイク使用時のハウリング
- アンプのトーンコントロールやグラフィックイコライザー等で低域を極端にブースト(増強)したり、低域が異常に強調された特殊なソースを再生した場合、本来の信号音以外に異常な音が発生する場合があります。
  これは、スピーカーユニットの限界を超えた時に発生する「ばた付き」が起こっているためで、故障ではありません。しかし、このような状態でご使用になると、スピーカーユニット破損の原因となりますので、音量を下げてご使用ください。

■防磁設計について
本機のスピーカーユニットは、（社）電子情報技術産業協会(JEITA)(旧(社)日本電子機械工業会(EIAJ))の技術基準に適合した防磁設計を施していますので、カラーテレビなどとの近接使用が可能となっています。ただし、設置のしかたによっては色ムラが生じる場合があります。その場合は一度テレビの電源を切り、15～30分後に再びスイッチを入れてください。テレビの自己消磁機能により画面への影響が改善されます。その後も色ムラが残るような場合は、本機をさらにテレビから離してください。また近くに磁石など磁気を発生するものが置かれている場合には本機との相互作用により、テレビに色ムラが発生する場合がありますので設置にご注意ください。

故障？と思ったら

本機が正常に動作しないときは、この表を参考にしてお調べください。これらの処置をしても直らないときは、電源プラグをコンセントから抜いて、「お名前」「おところ」「電話番号」「製品名（HTP-L5）」「故障状況」をできるだけ詳しくお買い上げいただいたお店、または当社サービステーションまでご連絡ください。

サブウーファー

症　状	原　因	処　置
電源が入らない。	・電源プラグの差し込みが不完全。	・電源プラグをコンセントにしっかり差し込んでください。
音が出ない。	・音量調整ツマミが最小になっている。 ・接続用ピンコードがはずれている。 ・入力スピーカーコードの接続が不完全。 ・アンプ(レシーバー)側のスピーカー設定が「サブウーファー無し」になっている。 ・入力信号が小さすぎて、スタンバイ状態になっている。	・適当な音量でご使用ください。 ・接続用ピンコードを正しく接続してください。 ・スピーカーコードを正しく接続してください。 ・アンプ(レシーバー)側の設定を確認してください。 ・アンプ(レシーバー)側の出力レベルを少し高くしてください。(6ページ参照) ・オートスタンバイスイッチ(AUTO STANDBY)をオフ(OFF)にしてください。
音が小さい。	・スピーカーコードの接続が間違っている。 ・ソースに低音が入っていない。	・スピーカーコードを正しく接続してください。 ・低音の入っているソースを再生してください。
ブーンというハム音が入る。	・ピンコードの差し込みが不完全。 ・外部のリーケージフラックス(テレビ等からの誘導雑音)	・ピンコードをしっかり差し込んでください。 ・雑音源より離してください。

サテライト

症　状	原　因	処　置
音が出ない。	・スピーカーコードの接続が不完全。	・スピーカーコードを正しく接続してください。

修理について

■保証書

この製品には保証書を別途添付していますので、お買い上げの際にお受け取りください。

所定事項の記入および記載内容をご確認いただき大切に保管してください。

保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

■調子が悪いときは

意外な操作ミスが故障と思われています。

この取扱説明書をもう一度よくお読みいただき、お調べください。本機以外の原因も考えられます。ご使用の他の製品もあわせてお調べください。それでもなお異常のあるときは、必ず電源プラグを抜いてから修理を依頼してください。

■保証期間中の修理は

万一、故障や異常が生じたときは、商品と保証書をご持参ご提示のうえ、お買い上げの販売店または、当社サービスステーションにご依頼ください。詳細は保証書をご覧ください。

■修理を依頼されるときは

「おところ」「お名前」「電話番号」「製品名(HTP-L5)」「故障または異常の内容」をできるだけ詳しくお買い上げ店、または当社サービスステーションまでご連絡ください。

■保証期間経過後の修理は

お買い上げ店、または当社サービスステーションにご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料修理致します。

■補修用性能部品の保有期間について

当社では本機の補修用性能部品を製造打ち切り後最低8年間保有しています。この期間は経済産業省の指導によるものです。性能部品とはその製品の機能を維持するために必要な部品です。保有期間経過後でも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますのでお買い上げ店、または当社サービスステーションにご相談ください。

ご購入されたときにご記入ください。
サービスを依頼されるときなどに、お役に立ちます。

ご購入年月日： ＿＿＿＿年＿＿月＿＿日

ご購入店名： ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

Tel.　　（　）

メモ：

仕様

●サブウーファー SL-105

形式	アンプ内蔵バスレフ型
用途	超低域再生専用
定格周波数範囲	30Hz～200Hz
クロスオーバー周波数	50Hz～200Hz(可変)
実用最大出力	75W(5Ω・EIAJ)
入力インピーダンス	スピーカー入力：4.7kΩ ライン入力：12kΩ
入力感度	スピーカー入力：2V ライン入力：45mV
使用スピーカー	20cmウーファー
電源	AC100V(50/60Hz)
消費電力	53W
外形寸法(W×H×D)	235×416×404mm
質量	12.5kg
その他	オートスタンバイ：ON/OFF（キャンセルスイッチ付き） 防磁対応(EIAJ)

●サテライトスピーカー D-L5

形式	8cm OMFコーンバスレフ型
定格周波数範囲	125Hz～25kHz
最大入力	40W
インピーダンス	6Ω
定格感度レベル	83dB/W/m
外形寸法(W×H×D)	85×120×112mm
質量	0.7kg
その他	防磁対応(EIAJ)

※定格および外観は、性能向上のため予告なしに変更することがあります。

本機は日本国内専用モデルですので、外国で使用することはできません。

本社　大阪府寝屋川市日新町2-1　〒572-8540

製品の故障や修理についてのお問い合わせ先：
お買い上げの販売店もしくはオンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内記載の最寄りのサービスステーションへお申し出ください。
お客様相談窓口　☎ 072(831)8111

SN 29343229

G0107-1